

一般財団法人石田實記念財団

2023 年度 事業報告書

2023 年度事業報告および決算報告について

2023 年度 事業報告および決算報告
＜自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日＞

2023 年度は、新型コロナウイルスの 5 類感染症移行に伴い、オンライン形式を併用しつつ多くの財団行事を対面形式で開催し、10 月 27 日（金）の石田實記念財団研究奨励賞贈呈式・発表会につきましても皆様のご協力のおかげで仙台ガーデンパレスホテルの会場にて開催することができ、無事終了することができました。

今年度の石田實記念財団研究奨励賞の応募は 12 件あり、選考の結果、1 件の研究に特別賞（石田賞）を、10 件の研究に奨励賞を贈呈しました。これにより、1989 年の財団創設時からの助成件数及び賞金金額は、のべ 273 件、150,100,000 円となりました。

ここに、あらためて宮城県および関係企業の皆様、そして財団理事、監事、評議員の方々のお力添え、ご厚情に感謝申し上げます。

2023 年度の事業概要は次のとおりです。

I. 財団行事

1. 2023 年 6 月 2 日（金） ※オンライン形式

第 32 回理事会

- | | |
|---------|--|
| 第 1 号議案 | 2022 年度の事業報告及び決算報告について |
| 第 2 号議案 | 2022 年度実施の金融資産売却による
資金の基本財産から流動資産への補填について |
| 第 3 号議案 | 役員の改選による評議員会への候補者推薦について |
| 第 4 号議案 | 2023 年度スケジュールについて |
| 報告事項 | 電子帳簿保存法対応のためのシステム導入検討について |

2. 2023 年 6 月 16 日（金）

第 24 回評議員会（場所：仙台ガーデンパレスホテル）

- | | |
|---------|--|
| 第 1 号議案 | 2022 年度の事業報告及び決算報告について |
| 第 2 号議案 | 2022 年度実施の金融資産売却による
資金の基本財産から流動資産への補填について |
| 第 3 号議案 | 役員の改選による評議員会への候補者推薦について |
| 第 4 号議案 | 2023 年度スケジュールについて |
| 報告事項 | 電子帳簿保存法対応のためのシステム導入検討について |

3. 2023 年 6 月末～

研究奨励賞推薦依頼開始

4. 2023 年 9 月 8 日（金） ※オンライン形式

研究奨励賞選考委員会

5. 2023 年 10 月 27 日（金）

研究奨励賞贈呈式・発表会（場所：仙台ガーデンパレスホテル）

6. 2024 年 3 月 22 日（金） ※オンライン形式

第 33 回理事会

第 1 号議案 2024 年度事業計画および予算について

第 2 号議案 2024 年度資産の運用について

第 3 号議案 2024 年度財団スケジュールについて

第 4 号議案 当財団の事務局長任命について

報告事項 藤原正樹氏の当財団理事への推薦について

報告事項 電子帳簿保存法に対応したシステム導入について

報告事項 2023 年度の事業報告及び決算報告（仮）について

その他 2024 年度当財団名簿（案）について

第 25 回評議員会

第 1 号議案 2024 年度事業計画および予算について

第 2 号議案 2024 年度資産の運用について

第 3 号議案 2024 年度財団スケジュールについて

報告事項 当財団の事務局長任命について

報告事項 藤原正樹氏の当財団理事への推薦について

報告事項 電子帳簿保存法に対応したシステム導入について

報告事項 2023 年度の事業報告及び決算報告（仮）について

その他 2024 年度当財団名簿（案）について

Ⅱ. 試験研究支援事業

先述のとおり、宮城県内の大学、高等専門学校等に対し研究奨励賞候補者の推薦を依頼したところ 12 件の推薦があり、9 月 8 日に開催された研究奨励賞選考委員会での審議の結果、以下＜P.4 資料-1＞の通り 11 件の研究が採択されました。うち 1 件が研究奨励賞特別賞（石田寛賞）、10 件が研究奨励賞となっております。

2023 年度研究奨励賞受賞研究

半導体二次元プラズモンを活用した光無線融合型新原理 超ブロードバンド信号処理デバイスの研究実用化※研究奨励賞特別賞（石田實賞） 東北大学電気通信研究所	准教授 佐藤昭
生分解性イオン液体による環境調和型蓄電素子に関する研究 東北大学大学院工学研究科ロボティクス専攻	助教 山田駿介
組合せ遷移による常時稼働型システムの構成最適化に関する研究 東北大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻	准教授 鈴木顕
強誘電体ナノスケール物性評価および強誘電体を用いた情報ストレージに関する研究 東北大学電気通信研究所	准教授 平永良臣
次世代情報通信セキュリティのための格子暗号の安全性評価に関する研究 東北学院大学工学部情報基盤工学科	准教授 深瀬道晴
地域の災害リスクを可視化するためのオープンデータの活用手法に関する研究 東北学院大学情報学部データサイエンス学科	講師 渡邊圭
広帯域レーザー波長発生・波長変換技術に関する研究 東北工業大学工学部情報通信工学科	教授 富田勲
人工ニューラルネットワークに基づいたストリーム暗号に関する研究 石巻専修大学理工学部情報電子工学科	准教授 劉忠達
リズム生成と自動化に関わる時間処理機能と運動関連脳領域の役割に関する研究 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻	講師 沼田純希
SOI半導体検出器を用いたガンマ線可視化技術に関する研究 仙台高等専門学校総合工学科	助教 加賀谷美佳
高度情報通信社会に向けた低環境負荷金属リサイクルプロセス構築に関する研究 仙台高等専門学校総合工学科	准教授 葛原俊介

Ⅲ. 試験研究設備設置事業

本年度はありませんでした。

IV. 講演会開催事業

2023 年度試験研究支援事業における研究奨励賞贈呈者による研究発表会を、同年度の当財団の主事業と位置付け、次のとおり開催しました。プログラムは＜P.6 資料-2＞をご覧ください。

開催日 2023 年 10 月 27 日（金）

会場 仙台ガーデンパレスホテル

来賓	東北大学工学研究科長工学部長	伊藤彰則 先生
	東北大学大学院情報科学研究科長	加藤寧 先生
	東北大学電気通信研究所教授	尾辻泰一 先生
	東北学院大学工学部長	岩谷幸雄 先生
	東北学院大学情報学部長	伊藤則之 先生
	東北工業大学工学部長	工藤栄亮 先生
	石巻専修大学理工学部教授	工藤すばる 先生
	仙台高等専門学校長	澤田恵介 先生

研究奨励賞贈呈者による発表内容につきましては、上記Ⅱの試験研究支援事業と同じ内容となります。

2023年度 一般財団法人石田實記念財団
研究奨励賞贈呈式ならびに研究発表会プログラム

2023年10月27日（金）於：ホテル仙台ガーデンパレスホテル4階 コンベンションルーム

司会 一般財団法人石田實記念財団 常務理事 米谷 恭児

- | | | | |
|---|-------------|---|--|
| 1 | 13:00～13:10 | 【開会の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 理事長 根元 義章 | |
| 2 | 13:10～13:20 | 【来賓のご挨拶】東北大学大学院工学研究科長・工学部長 伊藤彰則先生 | |
| 3 | 13:20～13:35 | 【2023年度研究奨励賞贈呈式】研究奨励賞特別賞（石田實賞）
ならびに研究奨励賞・副賞 贈呈 | |
| | 13:35～13:40 | 会場準備 | |
| 4 | 13:40～16:45 | 【2023年度研究奨励賞受賞者による研究発表】（11名） | |
| ① | 13:40～14:05 | 東北大学電気通信研究所
准教授 | 半導体二次元プラスモンを活用した
光無線融合型新原理超ブロードバンド
信号処理デバイスの研究実用化
※研究奨励賞特別賞（石田實賞） |
| ② | 14:05～14:20 | 東北大学大学院工学研究科
ロボティクス専攻
助教 | 生分解性イオン液体による
環境調和型蓄電素子に関する研究 |
| ③ | 14:20～14:35 | 東北大学大学院情報科学研究科
システム情報科学専攻
准教授 | 組合せ遷移による常時稼働型システムの
構成最適化に関する研究 |
| ④ | 14:35～14:50 | 東北大学電気通信研究所
准教授 | 強誘電体ナノスケール物性評価
および強誘電体を用いた情報ストレージ
に関する研究 |
| ⑤ | 14:50～15:05 | 東北学院大学工学部
情報基盤工学科
准教授 | 次世代情報通信セキュリティのための
格子暗号の安全性評価に関する研究 |
| ⑥ | 15:05～15:20 | 東北学院大学情報学部
データサイエンス学科
講師 | 地域の災害リスクを可視化するための
オープンデータの活用手法に関する研究 |
| | 15:20～15:30 | 【休憩】 | |
| ⑦ | 15:30～15:45 | 東北工業大学工学部
情報通信工学科
教授 | 広帯域レーザー波長発生・波長変換技術
に関する研究 |
| ⑧ | 15:45～16:00 | 石巻専修大学理工学部
情報電子工学科
准教授 | 人工ニューラルネットワークに基づいた
ストリーム暗号に関する研究 |
| ⑨ | 16:00～16:15 | 東北文化学園大学医療福祉学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻
講師 | リズム生成と自動化に関わる
時間処理機能と運動関連脳領域の役割
に関する研究 |
| ⑩ | 16:15～16:30 | 仙台高等専門学校
総合工学科
助教 | SOI半導体検出器を用いた
ガンマ線可視化技術に関する研究 |
| ⑪ | 16:30～16:45 | 仙台高等専門学校
総合工学科
准教授 | 高度情報通信社会に向けた
低環境負荷金属リサイクルプロセス構築
に関する研究 |
| 5 | 16:45～16:55 | 【選考委員長の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 理事 鈴木 陽一 | |
| 6 | 16:55～17:00 | 【閉会の挨拶】一般財団法人石田實記念財団 常務理事 米谷 恭児 | |
| 7 | 17:00～17:10 | 【記念撮影】理事長、来賓、選考委員長ならびに受賞者の皆様 | |

V. 決算報告

2023 年度の決算報告につきましては以下のとおりです。

① 貸借対照表＜P.8 資料-3＞

2022 年度比で、投資有価証券（株式）が 3,259,200 円減少したものの、投資信託（積立）が 10,349,668 円増加となり基本財産は 5,703,942 円増加し、流動資産他と合わせた資産合計（一般正味財産）は 5,703,942 円増加の 205,238,340 円となりました。

② 正味財産増減計算書＜P.9 資料-4＞

計上収益は基本財産受取配当金の増加等により、前年度比 323,658 円増加の 1,885,097 円となりました。

経常費用は会場諸費の増加等により、前年度比 165,747 円増加の 9,295,281 円となりました。

評価損益等は、主に投資有価証券評価益により前年度比 9,753,671 円増加の 13,114,126 円となりました。詳細は「2023 年度投資有価証券評価損益について」＜P.10 資料-5＞のとおりです。

また、決算報告にかかる外部監査報告書＜P.11～12 資料-6＞ならびに内部監査報告書＜P.13 資料-7、P.14 資料-8＞を添付いたします。

貸借対照表

資料-3

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金 1	120,654	131,733	△ 11,079
普通預金（三菱UFJ信託） 2-1	4,440,688	4,561,991	△ 121,303
普通預金（七十七） 3	212,638	174,515	38,123
普通預金（大和ネクスト銀行） 4	7	7	0
仮払金 6	349,335	255,076	94,259
流動資産 合計	5,123,322	5,123,322	0
2. 固定資産			
■ (1) 基本財産			
普通預金（三菱UFJ信託） 2-2	4,803,638	6,678,660	△ 1,875,022
投資信託口座（楽天・SBI証券） 8-3, 8-4	225,327	225,327	0
投資信託（積立） 10	74,381,681	64,032,013	10,349,668
投資信託（私募投信） 5-3	10,981,367	10,065,371	915,996
投資有価証券（国債・地方債） 9-1	16,122,000	16,549,500	△ 427,500
投資有価証券（株式） 9-2	93,601,000	96,860,200	△ 3,259,200
基本財産 合計	200,115,013	194,411,071	5,703,942
■ (2) その他の固定資産			
工具・器具 11	5	5	0
その他の固定資産 合計	5	5	0
固定資産合計	200,115,018	194,411,076	5,703,942
資産合計	205,238,340	199,534,398	5,703,942
II 負債の部			
未払法人税等44	72,000	72,000	0
負債合計	72,000	72,000	0
III 正味財産の部			
一般正味財産	205,166,340	199,462,398	5,703,942
（うち基本財産への充当額）	（ 200,115,013 ）	（ 194,411,071 ）	（ 5,703,942 ）
負債及び正味財産合計	205,238,340	199,534,398	5,703,942

正味財産増減計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	(1,885,000)	(1,561,296)	(323,704)
基本財産受取利息16-1	225,000	225,000	0
基本財産受取配当金16-2	1,660,000	1,336,296	323,704
② 受取寄付金	(0)	(0)	(0)
受取寄付金	0	0	0
③ 雑収益	(97)	(143)	△ 46
受取利息17	97	143	△ 46
雑収入18	0	0	0
経常収益計	1,885,097	1,561,439	323,658
(2) 経常費用			
① 事業費	(7,732,644)	(7,751,061)	(△ 18,417)
・ 試験研究支援事業費	(6,838,262)	(7,362,840)	(△ 524,578)
奨励賞19	6,544,500	7,094,000	△ 549,500
役員報酬20	120,000	160,000	△ 40,000
旅費交通費21	116,260	40,750	75,510
会場諸費22	0	0	0
雑費23	57,502	68,090	△ 10,588
・ 講演会開催及び後援事業費	(894,382)	(388,221)	(△ 506,161)
諸謝金24	0	0	0
役員報酬25	160,000	180,000	△ 20,000
旅費交通費26	108,017	50,530	57,487
会場諸費27	530,900	24,968	505,932
負担金28	0	0	0
雑費29	95,465	132,723	△ 37,258
・ 産学官交流事業費	(0)	(0)	(0)
寄附金30	0	0	0
雑費31	0	0	0
② 管理費	(1,562,637)	(1,378,473)	(△ 184,164)
役員報酬32	380,000	360,000	20,000
会議費33	119,750	305,800	△ 186,050
旅費交通費34	157,786	58,540	99,246
通信費35	50,236	37,798	12,438
事務用消耗品費36	1,706	2,860	△ 1,154
広告宣伝費37	284,302	275,732	8,570
雑費38	73,197	2,913	70,284
諸謝金39	0	0	0
支払手数料40	423,464	262,680	160,784
支払利息41	0	0	0
法人税等42	72,000	72,000	0
減価償却費43	0	0	0
租税公課45	196	150	46
経常費用計	9,295,281	9,129,534	165,747
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,410,184	△ 7,568,095	157,911
基本財産評価損益等9-3、9-4、9-5	13,114,126	3,360,455	9,753,671
評価損益等計	13,114,126	3,360,455	9,753,671
当期経常増減計	5,703,942	△ 4,207,640	9,911,582
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損46	0	2	△ 2
経常外費用計	0	2	△ 2
当期経常外増減計	0	△ 2	2
当期一般正味財産増減額	5,703,942	△ 4,207,642	9,911,584
一般正味財産期首残高	199,462,398	203,670,040	△ 4,207,642
一般正味財産期末残高	205,166,340	199,462,398	5,703,942
II 正味財産期末残高	205,166,340	199,462,398	5,703,942
	投資有価証券評価益9-3	31,537,530	
	投資有価証券評価損9-4	18,909,500	
	投資有価証券売却益9-5	486,096	
	評価損益等計	13,114,126	

2023年度 投資有価証券評価損益について

勘定元帳9-3 投資有価証券評価益	金額（円）	勘定元帳9-4 投資有価証券評価損	金額（円）
大和ハウス株式 評価益	989,800	第144回20年国債（1.5% 満期 2033年3月20日）	427,500
富士フィルムHLDGS株式 評価益	1,023,600	大井電気株式会社株式 評価損	17,871,000
出光興産株式 評価益	1,386,000	ダイキン工業株式 評価損	611,000
村田製作所株式 評価益	129,600		
トヨタ自動車株式 評価益	764,800		
伊藤忠株式 評価益	2,598,000		
三井物産株式 評価益	2,990,000		
住友商事株式 評価益	1,311,000		
三菱商事株式 評価益	6,852,000		
NTTデータ株式 評価益	278,200		
私募投信「グローバル・フレイズ・ファンド M（一般投資家私募）」評価益	915,996		
世界経済インデックスファンド（楽天証券） 評価益	6,083,637		
三井・住友・DC年金バランス50（楽天証券） 評価益	4,627,849		
野村インデックスファンド内外資産バランス（SBI証券）評価益	1,587,048		
小計	31,537,530		
勘定元帳9-5 投資有価証券売却益	金額（円）		
花王 @5,715.1× 600株 売却	328,860		
野村インデックスファンド（一部解約 1,289,871口）	157,236		
小計	486,096		
合計	32,023,626	合計	18,909,500
評価損益計		13,114,126	

独立監査人の監査報告書

2024年5月22日

一般財団法人 石田實記念財団
理 事 会 御 中

柴田公認会計士事務所
宮城県仙台市

公認会計士

柴田 純一



監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般財団法人石田實記念財団の2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度事業年度の貸借対照表、正味財産増減計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、正味財産増減の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事長は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示のリスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示のリスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの

合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告書

2024年5月29日

一般財団法人石田實記念財団

理事長 根元 義章 殿

一般財団法人石田實記念財団

監事 齊藤 伸



監事は、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討しました。

2. 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上

監査報告書

2024年5月30日

一般財団法人石田實記念財団

理事長 根元 義章 殿

一般財団法人石田實記念財団

監事 田村 隆司



2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の公益目的支出計画報告書に関する監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討しました。

2. 監査意見

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上